

新会長就任のご挨拶

社団法人 大阪府歯科衛生士会
会長 丸山 直美



平素は会運営にご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびの役員改選により新たに会長に就任いたしました丸山直美でございます。今年度は公益法人の認定を受けるという、大阪府歯科衛生士会にとって大きな節目を迎える年になります。そういう最中での就任ということで、重責をひしひしと感じております。移行認定の時期が予定よりかなり遅れており、今まで本会の実績を積みあげてこられた諸先輩方には大変ご心配をおかけしております。とにかく早く認定を受けることができるよう最優先課題として取り組んでまいります。

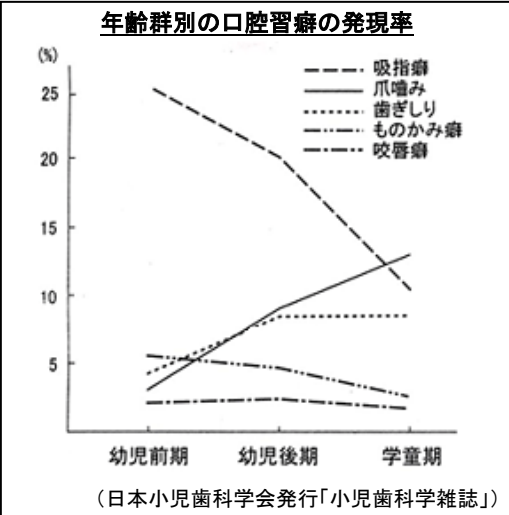
一方、医療現場では口腔衛生の重要性が認識されつつあり、他職種との連携が今まで以上に求められてきております。そして『歯科口腔保健の推進に関する法律』の制定・施行に伴い国を挙げて歯科口腔保健の推進に取り組む環境になってきています。以前から歯・口腔の健康の保持・増進を支援してまいりました私たち歯科衛生士が目される職種、活躍する時代がきているのではないのでしょうか。ますます知識や技術の習得に励む必要があります。府民の保健・医療・福祉の増進に寄与するために大阪府歯科衛生士会ができることを模索し、実践することを考えていきたいと思っております。

これから2年間執行部一同力を合わせ会の運営にあたりますが、会員の皆様ひとり一人のご協力なくしては事業の継続は難しくなります。また府民の皆様の支持があってこそ成立する事業もありますので、どうぞ大阪府歯科衛生士会の活動に対しまして引続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

口腔習癖と歯並び

口腔習癖とは、口から喉までの部分に対して無意識に繰り返す「癖」をいいます。

主な癖として、「指しゃぶり」「おしゃぶり癖」「下唇を咬む癖」「舌で歯を押す癖」「口呼吸」「爪噛み」などがあります。これらを成長期の子供が長期間行うと歯並びや顎の成長に影響を与え、歯並びや咬みあわせを悪くする原因となります。また、歯並びや咬み合わせへの影響だけでなく、成長期の子どもの「噛むこと」「発音」「飲み込み」「呼吸」などの歯や口の機能に影響を及ぼす恐れがあります。癖の発現には年齢的なものが関係しており、成長・年齢に応じた対応が必要となります。例えば「指しゃぶり」は1歳～2歳までは本能的にみられるごく普通なものですが、4歳を過ぎても続いていると歯並びや顎の成長影響を及ぼす恐れがあり注意が必要です。背景に子供の性格や情緒不安などの心の問題が関係していると言われていたものもあり、心理面でのサポートも必要となります。



- *「指しゃぶり」⇒ 指の力が前歯や顎に加わり、歯が上下左右に動き出っ歯や開咬の原因となります。
- *「舌で歯を押す癖」⇒ 舌の筋肉で歯の隙間を広げるため、すきっ歯や開咬の原因となります。
- *「下唇を咬む」⇒ 下唇を咬んだり吸ったりすると上の前歯は前方に傾斜し、下の前歯は内側に傾斜して出っ歯の原因となります。
- *「口呼吸」⇒ 口が常に開いていると口の周りの筋肉が緩み、下顎は下に押し下げられ開咬や出っ歯の原因となります。



今回の「ODHAかわら版」と「お口の雑学クイズ」はお休みです。